

アトピーと感染症

アトピー性皮膚炎のお子さんは皮膚の働きが弱くなっているので、いろいろなトラブルをおこしがちです。

夏場に多くなるのがとびひ（伝染性膿痂疹）。ブドウ球菌などによる皮膚の細菌症で、もしかかると皮膚の清潔とともに、抗生物質などを使って治療する必要があります。

水いぼ（伝染性軟屬腫）も皮膚の弱い子どもたちにできやすいウイルスの病気で、とくにアトピー性皮膚炎ではひどくなりがちです。

その他、単純性庖瘍ウイルスが感染をおこすと水ぼうそう（水痘）のように全身に発疹ができることもあります（カポジ水痘様発疹症）。

いずれの感染症も、ふだん使っているステロイド外用剤は症状を悪化させることが多いため、もしもかかったときには丁寧に治療をしていく必要があります。



●アトピー性皮膚炎とは・・

アレルギーが根本にあって、**痒み**を伴う湿疹が**全身**のいたるところにおき、それが**慢性**であるものをいいます。

アレルギーは乳児では食物が多く、年齢が大きくなるにしたがってダニや室内塵などに対しても反応するようになります。

痒みのためにひっかき傷をつくり、それがますます皮膚の状態を悪化させます。また皮膚が温かくなると痒みが強くなりますので、涼しくしておくことも必要です。痒みを上手におさえることは、アトピー性皮膚炎治療の基本になります。

長くかかるのも仕方のこと。お子さんにあった上手な方法をいっしょに考えながら、治療をすすめていきましょう。

●アトピー性皮膚炎の治療

①原因除去

ダニ（環境改善）、食物（除去食）

②外用薬

ステロイド剤、非ステロイド剤、免疫抑制剤（プロトピック）、保湿剤、抗ヒスタミン剤

③内服

抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤（かゆみ止め）、漢方薬

④スキンケア

清潔、保湿

⑤悪化因子除去

